



# 森の風の記憶

Presented by 諸塚村観光協会「まちむら応縁倶楽部」

## 諸塚の四季 Vol 1 地方からの情報発信を！

通刊第19号

平成19年3月31日発行

目次:

やま学校日記	2
諸塚を食べる	4
NEWS	5
イベント案内	6

この通信誌は、ご希望の方はメールでもお届けできます。下記にご連絡ください。

全村森林公園 諸塚  
百彩の森づくり

# 諸塚村

宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代3068  
しいたけの館21内諸塚村観光協会  
0982-65-0178  
Fax 0982-65-0189

3月中旬、諸塚村長らが東京に行きました。国の事業で諸塚村産直住宅プロジェクトが賞をいただき、その表彰式に出席するためです。

評価をいただいたのはありがたいことですが、なぜ東京でやるんだろうという素朴な疑問を感じます。数年前に鳴り物入りで始まった国のグリーンツーリズムの支援イベントが全部東京なので、山村での実施を提案しましたが、まだ実現していません。

忙しいトップや広告塔になるタレントが絡んでいますのでスケジュールとかいろいろ事情はあるのでしょうし、都会の人に周知できる中央でやるという考えもあるかもしれません。しかし、日常の都会生活では実感を伴わない情報や知識は、よほどの識者でないと実状は理解しにくいと思います。

せっかく地域の活力を評価するのなら、山村で表彰式をしてその現場をみんなで体感する方がいい気がします。なにより地域の活力は一部のトップだけではなく、地域の一人一人がつながりあってつくるものですので、みんなが表彰式を見て欲しいということもあります。

実務的には、受賞が決まってからでは会場などを確保するのが難しいでしょうから、前年の受賞地がホストになるという案はいいのではないかと考えていますが、是非来年に期待したいところです。(矢)



木材産地ツアー

## 3月の出来事

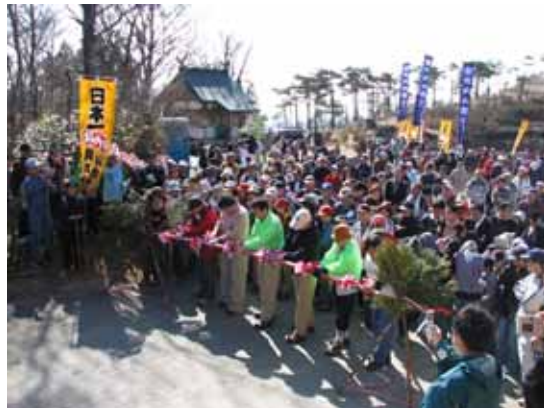
- ～ 3月末日 企画展「諸塚でヤブツバキを鑑る」
- 3月4日 日本一早い！諸塚山山開き
- 3月17～18日 第48回木材産地ツアー
- 3月25日 家代観音祭り
- 3月28日 吉野宮神社大祭「座頭神祭」

HP <http://www.vill.morotsuka.miyazaki.jp>  
e-mail [ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp](mailto:ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp)

## やま学校日記特別編

第22回 日本一早い！諸塚山山開き  
平成19年3月4日（日）

日本一早い！がキャッチフレーズの諸塚山山開きが開催されました。昨年は、山開きにしては珍しく好天に恵まれ、一昨年大雪で来られなかったリベンジとばかりにたくさんの登山客の皆様においでいただきましたが、奇跡的に2年連続で大変良い天気にも恵まれました。あまりに陽気が続き、登山道周辺にも全く雪が見られなかったので、「ちょっと山開きの風情がないかな」という声も聞かれるほど。諸塚山開きといえば雪、という印象が相当強いのだと思います。



早朝7時半には、遠方からの登山者や、朝一番で山に登ろうという方々が早くも諸塚山に集結してきていました。8時くらいから、特産品加工グループと商工会の方々による特産品や弁当の販売準備と、登山者の体を温める甘酒や豚汁の準備がはじまり、着々と登山客を受け入れるための準備が進みました。受付開始の9時前には、多くの登山客で受付場所がごった返すほどになっていました。

9時40分からは小原井地区の神楽が奉納され、10時から開会式典の神事で1年の

山頂が大にぎわいでした！

登山者の安全を祈り、主催者挨拶で観光協会長が「環境破壊が問題になっていますが、自然を愛する登山者の皆さまと、山を守る住民は、次の世代に豊かな自然を残せるよう努めましょう。」と挨拶しました。朝日新聞宮崎総局長の挨拶が続き、長崎山歩会による山の誓いの朗読が行われた後、恒例ののこぎりでのウッドカットが10時20分に行われ、一斉に諸塚山山頂に向け登山を開始しました。ウッドカットで切られたリボン付きの杉は記念にと争奪戦がおこる人気でした。ほとんどの方が1時間ほどで山頂に着くと、ほぼ同時の11時20分頃には朝日新聞社のヘリコプターが飛来し、山頂での記念撮影が行われました。



山頂は昼食を食べる方々で足の踏み場もないほどに埋まっていました。お弁当を食べて下山してくる12時30分頃から、緑地広場では、交流会でバンドによるアトラクションが行われ、宮崎市を拠点とする「グリーンハートクラブ」、諸塚村の「グリーンハウスバンド」の2組が出演しました。両バンドとも3年連続の出演で、青空と山をバックに心温まる歌と演奏を聞かせてくれました。中には演奏に合わせて踊り出す人もいて、それぞれに楽しんでいる姿が印象的でした。最後には登山者飛び入りの歌もあり、交流会の1時間半はあっという間に過ぎていきました。



今年の参加者数は、およそ1200名でした。1500名の昨年より若干少なかったようですが、そもそも山開きに1000名以上集まるのは珍しいことで、諸塚山の山開きは

どうしてこんなに集まるのだろうかという声を耳にします。第1回から順調に参加者数が増えているようですので、新聞等の宣伝効果や、参加者から仲間に口伝

### つながりを大事に！

えで広まるなどで徐々に、日本一早い！山開きであること、諸塚山そのものの魅力、ヘリからの記念撮影のこと、それと前夜祭から

地元の方々と参加者との交流の話などが広まり、今日の山開きにつながっているのだと思います。これからもそのつながりを大事にして末永く盛大に山開きを続けていきたいと考えますので来年もよろしくお願ひいたします。（直）

### やまの声 世話人 黒木 重人

くろき しげと 諸塚村観光協会長

山村・諸塚には欠かせない、コミュニティバスやタクシーを運行する(有)諸塚交通の社長でもあります。諸塚の交流事業を担う重職を努め、村民の信望も篤く、今後のご活躍が期待されます。

今年の諸塚山山開きは、2年連続の好天に恵まれ、1200名の参加で盛会だったことはとてもうれしいことでした。特に諸塚の場合、イベントの受入母体は地区＝公民館となりますが、飯干公民館を先頭に各公民館とも、館民総出で山の管理から登山道の整備、宿泊客の受入、前夜祭など一年間通して細部に至るまでお骨折りいただきました。「本当にありがとうございます」の一語に尽きます。

諸塚のイメージソング「山よ」の歌詞にあるように、時は流れ時代は変わっても、諸塚の歴史をずっと見つめている諸塚山とそこに住む人の心はいつも変わりません。今後とも末永く宜しくお願ひします。

## 諸塚を食べる！（19） わさび

今号が発行される頃には、春たけなわで、例年より早めに山菜のシーズンに突入しているかもしれません。わさびは、山深くわき水が豊富な諸塚では、古来から自生していた山菜ではないかと思いますが、昭和14年に県外からわさびの苗を入れて人口栽培が試みられたようですし、昭和40年代には諸塚農協が試験栽培し大阪市場に出荷したところ、高値で取引されたようで、その後も農家も栽培を始め順調に成長すると思われた矢先の昭和57年、その年の大きな台風により谷間に作られていたわさび田がほぼ全滅しました。諸塚村の特産品にという計画は、自然災害によりその基盤を失ってしまいました。



葉わさび

しかし、現在でもわき水が出そうな所には、わさびが自生しているところは多く、それらを元に人口栽培を行っている方達がおられます。諸塚村の多くの農家が、単品の作物を集中して作るのではなく、複数の作物を組み合わせで栽培する複合経営を行っていますが、わさびも地域によっては複合経営の1つの柱になる可能性は高いのかもしれない。

前置きが長くなりましたが、わさびと共に珍重されているのが、「葉わさび」です。読んで字のごとくわさびの葉の部分で、その根（実際には地下茎）と同様茎も葉も辛みがあり、おひたしや醤油漬けにして食べることが多いようです。特に諸塚では醤油漬けにされることが一番多いかもしれません。ご飯のお供や、酒のつまみにもってこいです。作り方は、よく洗ってから塩を少し振りまぜ、軽い重しをして一夜漬けにしたものを、水気を絞って、醤油、酒、酢少々で一晩ほど漬け込めば完成です。葉わさびは4月上旬ぐらいまで、宮崎市の「海幸・山幸」や、諸塚の「もろっこはうす」で買うことができます。さわやかな辛さを皆さんも味わってみてください。

大根葉のような「わさび菜」も少し辛みがありサラダや漬け物、おひたしに良いようです。お店に出ていますのでどうぞご賞味ください。（直）

## マメ知識 ~ 辛み成分の高い効能

わさびの辛み成分は、揮発性のからし油類です。コレラ菌を発見したコッホがこの辛み成分の殺菌性を報告して以来、抗寄生虫作用、ビタミンB1合成増強能、ビタミンC安定可能などが明らかにされ、最近では、一時期世間を騒がせたO-157、加えて黄色ブドウ球菌、腸炎ビブリオ菌など食中毒細菌に高い抗菌作用を持ち、さらに、ガンの原因にもなるとされる焼けこげ物質を分解することも確認されているそうです。まだ早いですが、暖かくなってくるこれから、生ものには、わさび類を合わせて食べれば無事乗り切れるかも？

## トピックス : 第48回木材産地ツアー

期 日 : 平成19年3月17日(土)~18日(日)

ほんものの木の家づくりを希望する街とほんものの素材を生産する山とをつなげる諸塚村木材産地ツアー。平成9年に始めたものですが、48回目が3月に行われました。今回は、鹿児島の家づくり塾を主宰される建築工房「自然木(じねんもく)」の主催です。鹿児島で家づくりを計画中のご家族3組を諸塚までご案内いただきました。

初日は、葉枯らし木材を生産している山林で木材搬出現場を見て、その木材を加工、ストックする木材加工センターも見学しました。木が家づくりの柱になる工程を目の当たりにされて、「本当に家づくりをする実感が湧いてきました」と皆さんおっしゃっていました。



お泊まりは、森の古民家「やましぎの杜」で、山菜料理を創ることから楽しめます。さすが鹿児島、皆さん酒豪の方が多く、夜の交流会も盛り上がりました。

2日目は、シイタケ採り体験、FSCスノコ作り体験のあとは、まあ夢でハーブ料理を楽しみました。まあ夢では、ハーブの花がきれいなハーブピザが人気でした。

最後はおまけでモザイク林を眺めながら草スキーを体験。小学生と幼稚園のお子さんがいましたが、怖いもの知らずで急な斜面を即席のダンボールソリで滑っていきます。ツアーは、木材見学や工場の製品を見ていただくのも大事な目的ですが、現代の生活では、「あぶない」「汚い」とかで敬遠されているあそびを、思い切り自然の中で楽しんで、健全な子供たちの心を育てるきっかけになればと思います。けっこう楽しい思い出になったのではないでしょうか。

ツアーは、10年目の今年、50回を数えることになりそうです。皆様もぜひご参加ください！



## イベント情報

### 諸塚の祭り(19)エコツアー

築130年以上の古民家など諸塚村のオリジナルな地域資源を舞台に開講するニュータイプの体験観光エコツアー「諸塚でやま学校しよう！」。

"やま学校"は、学校に行ったフリして山で遊ぶことで、昔は皆？経験していた様です。その19年度のカリキュラムが決まりました。

好評の、お茶摘み、田植え、そばまきなど四季折々の森の体験講座と、山菜、そば打ち、手前みそ仕込みと山の幸の食体験、そして村内各集落を回り、祭りや文化や人に触れる「やま学校特別講座」と盛りだくさんです。やま学校のベテラン名教授？の指導のもと、楽しい森の体験に汗を流し、村人と語り、山の幸を生かした料理に舌鼓を打つ。懐かしい五右衛門風呂に入り、朝は、小鳥のさえずりで目を覚まし、かまどで炊いたご飯をいただく。

記念すべき10年目の今年、さあみなさん、集落の元気なおじちゃん、おばちゃんに会えるやま学校に行こう！

<第72回4月期生募集中！>

平成19年4月28日(土)～29日(日)

森の体験講座 春祭り体験(神楽と団七踊り)

食体験講座 美味！春の山菜採り

やま学校講座 神山・諸塚山に登る

参加費 6,500円/人(1泊4食付)

3歳児以上中学生以下 5,500円

3歳児未満：無料

日帰り 3,500円/人(体験料と昼食・夕食含む)

定員 15名(先着順)

締切 平成19年4月24日(火)

### 【4月の予定】

4月15日

諸塚クロスカントリー大会

4月28～29日

第72回エコツアー

「諸塚でやま学校しよう！」

4月28～29日

日本山岳会宮崎支部

子ども登山教室 in 諸塚山

宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代3068

しいたけの館21内諸塚村観光協会

0982-65-0178

Fax 0982-65-0189

e-mail ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp



エコツアーの風景



## 編集後記

出会いと別れの時期、昨年廃校になった我が母校でも旅立ちと出会いのドラマがありました。今年からはそれありません。何かが足りないような気がしたら、間近にあった小学生の卒業、入学、先生達の離任、就任といった1つの大きな儀式が地区から消えていたのです。年齢が上の人ほどその寂しさを痛感しているようです。私の結婚が5年早かったら。田舎に残るのは風景だけ、では寂しすぎます。(直) 去る土曜日、産直住宅を検討されているTさんが久しぶりに諸塚に来られました。いよいよ家づくりが始まるそうですが、話を聞くと、昨年天逝した諸塚村のOさんの娘さんの高校担任で、その日は一周忌の法要だったそうです。偶然ですが、林業家のOさんは産直住宅用葉枯らし木材を今年出す予定です。Tさんの家にその材が使えると良いですねと話しました。友人を6人たどると世界中の方と繋がるといふ説があるそうですが、諸塚にいと3人でみんな繋がる気がします。悲しいことかもしれませんが、人の縁は大事なものだと思いました。(矢)



Presented by 諸塚村観光協会  
「まちむら応縁倶楽部」